

第3回マザーレイクフォーラムびわコミ会議の結果概要

◇開催概要

日 時： 平成 25 年 8 月 31 日（土） <第 1 部>10:30～12:00 <第 2 部>13:15～16:30

場 所： コラボしが 21（滋賀県大津市打出浜 2-1）

主 催： マザーレイクフォーラム運営委員会、滋賀県

参加者： 155 名

参加団体： 85 団体

ブース出展団体数： 25 団体

テーマ： 「水でつながる、人がつながる びわ湖の環^わ」

内 容：



【第一部】みんなつながる報告会 10:30～12:00

1 エントリーシートの取りまとめ状況の報告（県琵琶湖政策課 関慎介）

各団体間の情報交換を目的とするエントリーシートの取りまとめ状況について、県より報告を行った。配布資料およびパワーポイントにより取りまとめ状況を説明した。

2 活動団体5団体からの報告

次に、山・川・里・湖で活動する5団体からこの1年間の活動報告を行うとともに、県より関連するデータ等を提示し、県や学術フォーラム等の立場よりコメントを行った。

①山：「巨木と水源の郷を守る会」（小松明美）

“びわ湖源流の森をまもる”

DVDの動画を流しながら、安曇川流域におけるトチの木の保全活動、地域再生に向けた取り組みや、子ども達等との観察会などの活動を報告した。

②川：「白鳥川の景観を良くする会」（吉田栄治）

“まず源流のクリーン化への取組”

東近江市と近江八幡市にまたがる白鳥川において、過去7年間のごみ拾いの実績や、市民憩いの散策路づくり（桜並木）の活動内容を報告した。ポイ捨て、不法投棄が目立ち、大小様々なゴミが捨てられており、月2回のゴミ拾い活動を行っていること、琵琶湖へそれらゴミが流れて行く前に取り除くなどの清掃活動の報告や、市民が白鳥川に愛着を持つよう、桜並木にボンボリや鯉のぼりをあげたりの活動を報告した。

③里：「柊ラーゴ」（濱田知宏）

“湖東・湖南地域における企業による生物多様性保全の取り組み支援”

湖東・湖南地域を中心に各企業の取り組みが活発になっている現状と、活動する上での企業の抱える問題などを幅広く説明した。

【昼休み】 12:00～13:15

25 団体からブース出展があり、参加者は各ブースを見て回り、出展者と個々に交流した。



【第二部】 びわ湖のこれから話さへん？ 13:15～16:30

10のテーマ別に小グループに分かれ、話し合いを行った。

前後半50分ずつ、2回話し合いを行い、参加者は同じグループに留まるか、違うグループに移るかの選択ができた。

まず、「話し合い」の進め方や留意点等について、村上悟運営委員より説明を行った。

続いて、各小グループの担当者が紹介され、担当者は簡潔に話し合いのテーマのポイント等を説明した。

A-1「びわ湖ファンを増やすにはどうすればいいの？」（小丸和恵）

A-2「水と生き物を大切に暮らすを、守山の地域コミュニティでどう育んでいくか？」（村上悟）

A-3「琵琶湖が好き？暮らしに密着してる？」（辻村琴美）

A-4「こどもの目、おとなの目～環境学習を、どうすすめる？～」（中野隆弘）

A-5「びわ湖をきれいにするってどういうことだろう？」（三和伸彦）

A-6「企業はびわ湖のために何ができるか？」（中村満）

B-1「上流と下流のつながりって？」（小松明美）

B-2「ごみの多量沈殿でびわ湖の湖底は本当に大丈夫？」（吉田栄治）

C-1「琵琶湖のめぐみ、何を守り、後生（後世）に残したい？」（奥田昇）

C-2「人とびわ湖との関わりは今後どうあるべきか？」（中村清作）



司会者より、各グループごとの人数を事前に把握するとともに、できるだけ均等化するため、旗挙げによるアンケートを実施し人数調整を行った。



その後、メイン会場6グループ、サブ1会場2グループ、サブ2会場2グループの合計10グループにより、話し合いを行った。(50分×2回)



(15:15頃嘉田知事会場到着→各グループの話し合いの様子を視察)

<第二部まとめ>

嘉田知事による挨拶に引き続き、司会者は第二部に参加しての感想を旗上げや挙手により参加者に聞いた。

◇旗挙げによるアンケートの結果

「第二部に参加されていかがでしたか？」

- ①新しいつながり（びわ湖とのつながり・仲間など）を見つけることができた（31人：39%）
- ②自分たちの活動の参考になる情報が得られた（31人：39%）
- ③もっと議論したかった（17人：21%）
- ④その他（1人：1%）

◇会場からは、第二部に参加して次のような感想があった。

○守山での活動について、若い人、地域との連携を議論し、意見を得られたことが良かった。

○いろいろな方と話げできたことが良かった。明日への活動の参考になった。

○普段は子どもを対象に活動しているが、今回は大人からの意見も聞けて良かった。

<私のコミットメント>

参加者全員にコミットメント（約束）を記載してもらい、一斉に掲揚。

96名がコミットメントを記載した。



その後、司会者は数名にコミットメントの内容を尋ねた。

会場からのコミットメントや意見等は次のようなものがあった。

○女性：滋賀県とか琵琶湖に関心をもってもらう機会づくりをする

大人になっていくにつれ、琵琶湖に接する機会がへってきたので、関われる機会づくりをしていきたい。

○男性：「二枚貝の視点で豊かな水域づくりを進める。」

愛知から本日参加した理由は、去年に滋賀県から愛知に来てもらったので、今回はその答礼である。

○女性：「1人の100歩より100人の1歩。より多くの方が環境問題に関心を持ち身近なことから行動を始めるためのお手伝い」

環境学習センターで働いている。センターに問い合わせる人は少なからず環境への問題意識のある人であり、逆にいえばそういう人しか来ない。興味や関心を向けてない人と一緒にしていかないと、ごみをすてる人はいなくならず綺麗にはならない。百人の一步をまず目指したい。

○男性：川ガキ文化を伝えていきたい。

○男性：地域ぐるみで若い人たちとともに琵琶湖を守る活動をしていきたい。

○愛知県から参加の子ども1：「琵琶湖を前よりもきれいにする。」

魚などの生き物がたくさんいればみんな興味を示してくれると思った。

○愛知県から参加の子ども2：「琵琶湖のことをもっと知る」

琵琶湖のことをもっと知っていれば、もっと意見が言えたと思うのもっと琵琶湖を知りたいと思った。



最後に、嘉田知事から全体を通してのコメントがされた。

また、知事からは本日のびわコミ会議の運営に携わったマザーレイクフォーラム運営委員への謝辞が述べられ、自席での起立を求め、参加者全員に紹介した。

司会者より閉会が述べられ、第3回びわコミ会議は終了した。 (16:30)